

令和3年8月7日（土曜）土曜活用活動報告

8月7日（土曜）の土曜活用として特別講座を開講いたしました。新潟医療福祉大学言語聴覚学科 吉岡 豊 様・伊藤 さゆり 様、新潟医療福祉大学視機能科学科 増田 修 様・石井 雅子 様、日本歯科大学新潟短期大学 長谷川 優 様、新潟食料農業大学アグリコース 伊藤 豊彰 様・田副 雄士 様・小熊 哲也 様、新潟食料農業大学ビジネスコース 高力 美由紀 様、新潟薬科大学 山下 菊治 様・杉田 耕一 様、河合塾マナビス新潟駅前校 鈴木 隼 様の12名の方々にお願いいただき、参加生徒は94名（1年生36名、2年生18名、3年生17名、4年生13名、5年生9名、6年生1名）でした。

9月は、11日（土曜）18日（土曜）に開講いたします。今後ともよろしくお願いいたします。



会場へご案内いたします。
本日はよろしく
お願いいたします

今回は、講座参加・参観を希望する保護者の皆様にもお越しいただき、PTA事業である本事業「土曜活用活動」を体感したり、講座に取り組む生徒の様子や講座の内容を確認したりしていただきました。

保護者の皆さま、本日は宜しく申し上げます。



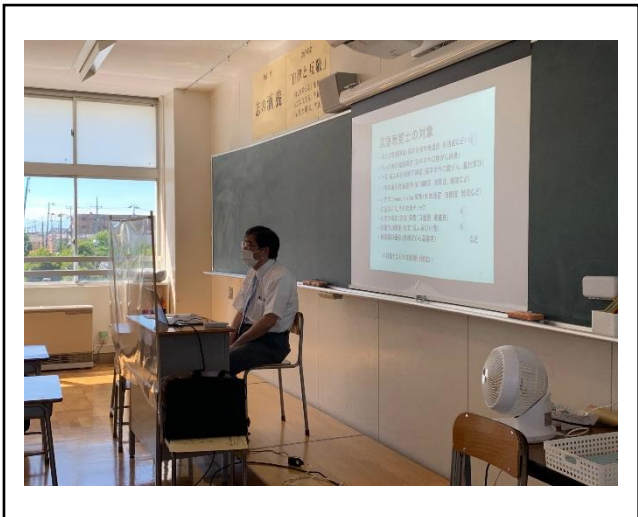
【講座名】 1 「言葉に関する訴えから症状を探る」

【講師】新潟医療福祉大学言語聴覚学科 吉岡 豊 様

【会場】1年3組教室

【活動概要】言葉に関する症状の訴えから、ある程度の検討をつけて、さらに問診や検診を行って、病名や症状を把握していこことを伺いました。また、言葉や発音の症状から必要な訓練を考えたりすることや発音等の病気の種類などを教えていただきました。

【活動の様子】



【参加人数】9名

【生徒の感想】

- ・障害や病気があっても話せるようになることがあると分かった。
- ・患者の様子から、どのような治療を行うか考える視点を変えることで、新たな考えが生まれることが分かった。
- ・同じ言葉を何回も繰り返して話すと普通の人のように話せるようになったのはすごいと思った。
- ・話すことが難しいのは、いろいろな症状が関わっていることが分かった。例を使って話していただいたので、とても分かりやすく勉強になりました。
- ・主訴から考えられることがあることを知って、とても興味深いなと思った。言語聴覚士の方にお世話になったことがあり話をきいてみたいと思って受講した。
- ・作業療法士については知っていたが言語については知らなかったので知ることができてよかった。

【講座名】2「手話って日本語？～手話の魅力とその障害について～」

【講師】新潟医療福祉大学言語聴覚学科 伊藤 さゆり 様

【会場】1年2組教室

【活動概要】手話の教育は学校によって異なります。手話には方言があることや日本語の基本は生まれてから3年間で決まること。そして、手話は表情や口の形が重要になることを教えていただきました。ろう者への誤解が解けるお話をたくさん伺いました。

【活動の様子】



【参加人数】13名

【生徒の感想】

- ・手話の失語症があることを知り、より手話を勉強したり使ってみたりしたいと思った。
- ・日本の文化や日本語に結びついてはいるが、文法や聴者が使用している語句が手話とは違うことが分かった。
- ・手話はとてもおもしろそうだと感じた。
- ・知らないことばかりで驚いた。失語症という障害について話せなくなるだけだと誤解していた。ろう者への理解が必要だし、医療の発展を期待できた講演だった。

【講座名】 3 「光と色の不思議とその科学」

【講 師】新潟医療福祉大学視機能科学科 増田 修 様

【会 場】1年1組教室

【活動概要】私たちの身の回りには、様々な光と色があふれています。色は、物理現象としての光の性質と、人間の感覚、生理、心理が構成するものであり、様々な不思議な現象が起こります。デモンストレーションを交えてわかりやすく講義をしていただき、物理的に異なる光が心理的に同じ色に見えたり、反対に物理的に同じ光が心理的に異なる色に見えたりすることを、体験することで実感できる内容の講義をしていただきました。

【活動の様子】



【参加人数】15名

【生徒の感想】

- ・ 光には色はなく、色はすべて心理的現象によるものだと分かった。
- ・ 光と色が科学とどのような関係があるのか興味があり参加した。色をつくり出しているのは自分自身だと知った。
- ・ 本当は色なんてなくて脳が勝手にあると思っているだけと分かった。色のない世界はどう映るのか？
- ・ 色は世界に実存しない。色の錯覚は聞いたり見たりすることがあった。人間の錯覚のおかげで世界が少しは発展していったと思った。
- ・ 人間には物理的に存在しない色があることを実感した。

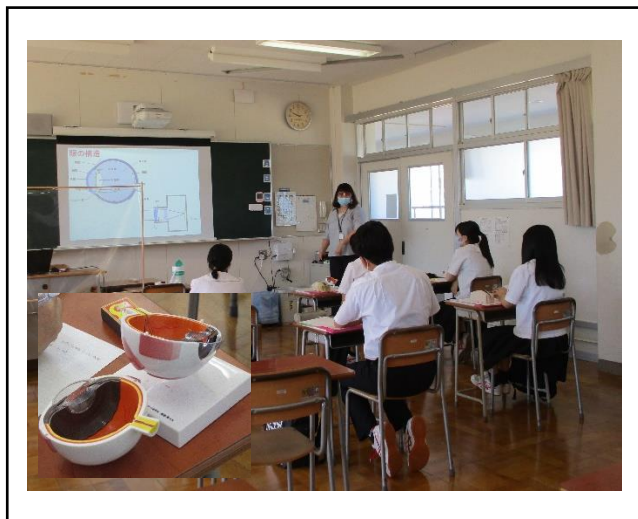
【講座名】4「スポーツビジョンの世界「視能訓練士の仕事」」

【講師】新潟医療福祉大学視機能科学科 石井 雅子 様

【会場】2年3組教室

【活動概要】スポーツと眼との関係について、目の模型といくつかの実験を交えて解説していただきました。視能訓練士の仕事の内容と国家資格取得までの流れもわかりやすく説明していただきました。

【活動の様子】



【参加人数】5名

【生徒の感想】

- ・目の構造は自分が思っていた以上に複雑なことが分かり、目をどのように使うかで見え方が全く違うことが分かった。
- ・いつも見ている景色は見えていない点が存在することが分かった。
- ・目とスポーツの関わりが深く、目を鍛えることでスポーツの上達につながるということが分かり驚いた。
- ・人間と動物の目の違いについて知ることが出来た。生き方によって、目が進化してきたことに興味をもった。何かを極めようと思ったら目を鍛えていきたいと思う。
- ・目が二つあることによって二次元平面のものを三次元立体として認識することが分かった。

【講座名】5 「歯と歯ならびーお口の中に興味を持とうー」

【講師】日本歯科大学新潟短期大学 長谷川 優 様

【会場】2年2組教室

【活動概要】人の顎は小さくなってきているのか、歯は退化してきているのか、どうして歯ならびは悪くなるのかをお聞きしました。また、マスクをしている日常で歯並びに影響することや、歯ならびを治すために日常的に気を付けることなどもお聞きしました。

【活動の様子】



【参加人数】3名

【生徒の感想】

- ・口だけではなく、体の姿勢が歯並びに影響していることが分かったので、姿勢を良くしようと思った。口呼吸が歯並びに影響することが分かった。
- ・先天的に歯の並びに個人差があるのではなく顎の成長過程や舌、頬の筋肉の状態が影響して歯並びにばらつきが生まれるのだと分かった。
- ・食べた次の日に顎が痛くなることがあった。今日はそれがどういうことか分かった。
- ・矯正した後から、また悪くなってほしくないの、そうならないための話なので参考になる話が多く、とても面白かった。足を組む、頬づえ等は顎関節症になることが分かった。
- ・歯並びが悪くなることをよく知れたので、今後気を付けていきたい。
- ・マスクで口呼吸になることで歯並びに影響することを知って、意識的に気を付けたいと思った。

【講座名】6「土壌保全が人の暮らしと地球を守る ～土壌が温暖化を抑制し、食料生産を持続可能にする～」

【会場】2年1組教室

【講師】新潟食料農業大学アグリコース 伊藤 豊彰 様

【活動概要】1、世界の人口をささえる農業と土壌の役割。2、温暖化対策としても土壌は役立つ。3、農業は生態系破壊の原因でもある。4、生態系を保全し生物を活用する農業へ転換。これによって、どんな良いことが起こるか。この4つのテーマについてお話を伺いました。

【活動の様子】



【参加人数】2名

【生徒の感想】

- ・自分が知らなかった知識や生態系を守る農業について知れたので今後生きる講座だったと思う。
- ・時間が足りないと思うほど、いっぱいの内容がつまった素晴らしい講座だった。
- ・総合の授業で調べているテーマと講座のテーマが似ていたので興味があり受講した。土壌が私たちの生活や環境問題、生態系と大きく関係していることや農業に悪い影響もあることが分かった。これからの総合の学習や、これからの生活に今回聞いたことを生かしていきたいと思った。
- ・自分の総合のテーマに合っていたので参加した。

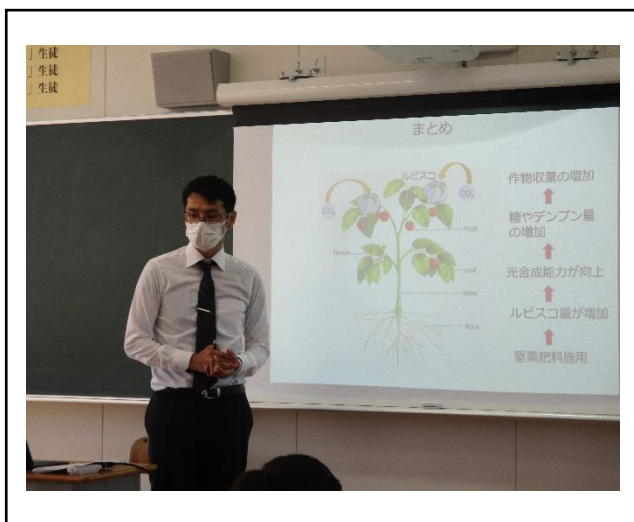
【講座名】7「光合成研究から見てきた作物の生産性向上の可能性」

【会場】3年3組教室

【講師】新潟食料農業大学アグリコース 田副 雄士 様

【活動概要】植物の光合成は、光エネルギーを使って水と二酸化炭素から炭水化物を作り出す反応ですが、植物の光合成能力を最大限発揮させるために、複雑な調節機構が働いています。実際の農業現場では、植物の光合成機能をうまく調節することにより、成長を早めたり、生産性を高めたりする工夫がなされています。先生がこれまでに行ってきた光合成研究のトピックや、農業現場における応用例のお話を伺いました。

【活動の様子】



【参加人数】6名

【生徒の感想】

- ・生物の改良をしようとする、別の機能が発達してしまう等の課題が出来て、また環境との釣り合いの観点から、身近な生活から農業について考えていこうと思った。
- ・自分が全く知らない分野について話をきくことで新たな発見があると思い参加した。理科で習った光合成や葉緑体について、より深く学ぶことが出来た。
- ・地球温暖化が進んで、植物にはプラスのことしかないと考えていたが、温度が高いと植物は呼吸をするので光合成はあまりしないので、マイナスのこともあると分かった。
- ・光を受けるだけでなく、光を受け取る力も必要だということ、そのためには窒素が必要であり、そのために肥料をまくのだということが分かった。

【講座名】 8 「甘くないけど役に立つ糖に関する話」

【会 場】 3 年 2 組教室

【講 師】 新潟食料農業大学アグリコース 小熊 哲也 様

【活動概要】 砂糖、ブドウ糖、オリゴ糖など「糖」ときくと甘いイメージすることが多いが、甘くない「糖」もあるということを聞き、生徒も驚いていました。微生物を活かすことで有用物質が生まれるため、どうやったらよい微生物を発見できるのかを、分かりやすく教えていただきました。

【活動の様子】



【参加人数】 5 名

【生徒の感想】

- ・ 専門用語が沢山出てきて難しそうだなと思ったが、分かりやすく説明してもらえたのでよかった。
- ・ 私たちの体の中にも微生物がいて、どのように微生物を生かしていくとよいのかをすることができた。
- ・ 私は、甘いものが好きなので、むし菌にかかりやすいが、今回の講座でオリゴ糖がむし菌になりにくいと知ったので、オリゴ糖をかってみたいと思った。先生の話は、例えが具体的でとても分かりやすかった。
- ・ 先生のように、あきらめないようにしたいと思った。

【講座名】9「新商品はこうして生まれる！～フードビジネスにおける商品開発～」

【講師】新潟食料農業大学ビジネスコース 高力 美由紀 様

【会場】3年1組教室

【活動概要】

新しい商品をつくる際に、ターゲットやニーズに沿ったものを開発する必要性がありますが、基本的に5W1Hをもとに考えられていて、その中で、どのようにしえ食の大切さや役割を伝えようとしているのかを知り、生徒自身も「食」に関して考えさせられる講義となりました。

【活動の様子】



【参加人数】7名

【生徒の感想】

- ・CMなどもいろいろなねらいがあって作られていると知り、興味が湧いた。
- ・総合探究で農業について調べていて、食品ロスを解決するために野菜の活用方法はないかと思い参加したが、ビジネスを踏まえて改めて考えてみようと思った。
- ・総合で農業のことを調べている。規格外野菜がとても大きなロスになっていることを知った。野菜を捨てずに方法がないかと商品開発の講座を受けた。年齢層だけでなく販売する場所や値段、広告などにもこだわることが大切だと分かった。
- ・食についての職業に興味がある。フードビジネスについての理解が深まった。新しい商品を開発するだけでなく、生活のいろいろな場所で食は関わっていることも新たに分かった。

【講座名】10「骨は何者？」

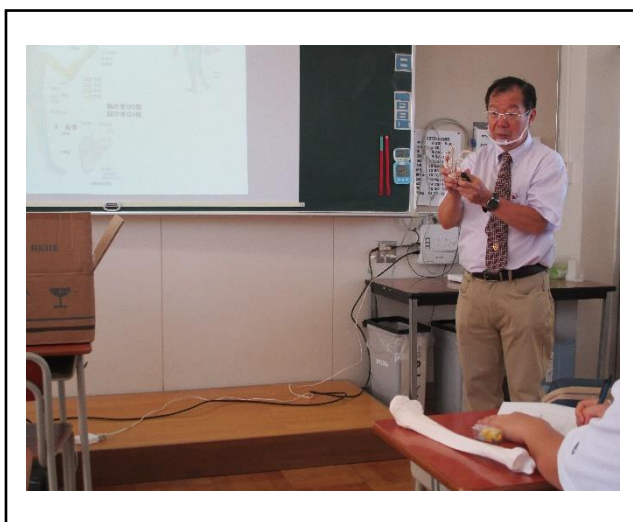
【講師】新潟薬科大学 山下 菊治 様

【会場】4年3組教室

【活動概要】

骨は丈夫でなければいけない、という知識はあっても普段深く考えることのない骨の本質、筋肉との関係について教えていただきました。また、どのように骨が成長し、そして動かすことができているのかを知ることによって普段の生活や運動に活かせる部分の多い講義でした。

【活動の様子】



【参加人数】4名

【生徒の感想】

- ・数年前に骨折をし、これからも元気に過ごすために骨について知りたいと考えて参加した。実際に、骨を組み立ててみて、骨と骨がどのようなになっているのかを見れて楽しかった。
- ・骨は全身で206個もあることに驚いた。骨だけでなく、筋肉との関係性も知ることができてよかった。
- ・骨は骨だけで動くことが出来なく、筋肉がないと動かないこと。骨と骨の接する面はなめらかで、そのおかげでいつも支障なく体を動かせることを知った。お話を聞きながら腕を動かしたり、そこから模型を組み立ててみたりして、骨に興味を持った。

【講座名】11「これからの農業美ビジネス～ブランディングデザインの考え方～」

【講師】新潟薬科大学 杉田 耕一 様

【会場】4年2組教室

【活動概要】農業を行う上で大切にされているのは、いいものを作るだけではなく、デザインも重要であり、他者と比べて買い手の心理的なものをつかむことも大切なのだとご講義いただきました。最近は高齢者の方が多くなってきている中で、農業の新たな一面を知ることができる貴重な講義でした。

【活動の様子】



【参加人数】5名

【生徒の感想】

- ・将来、農学部で学びたいと考えていて、商品の開発にはおいしさだけでなく、見た目やPRの仕方などで買い手が変わってくることを知れてよかった。
- ・ブランディングデザインはいろいろな人と協力をして作っていくことなのだと分かった。
- ・商品だけでなく自己PRにも大事なことだと先生のお話で納得した。
- ・良いものを作って出荷するだけでは選ばれない時代で他者と比べた時にずば抜けた何かがないといけないということや目に見えない心理的なものをつかむことが大事だと分かった。
- ・農業ビジネスとはどんなものか知りたいと思い受講した。値段ではなく価値を買っていることが分かった。

【講座名】12「大学の選び方（入門編）」

【講師】河合塾マナビス新潟駅前校 鈴木 隼 様

【会場】視聴覚室

【活動概要】大学とは、自分の得意分野を伸ばす場所であり、国公立大と私立大の特徴を踏まえて選択するうえで気を付けるべきこと、入試に向けての学習方法をご講義いただきました。また、前期、後期生でしっかりと基礎を作るために、予習と復習が必要なのだと改めて教えていただき、学んだことを今後の学習に取り入れようという生徒が多く見受けられました。

【活動の様子】



【参加人数】20 名

【生徒の感想】

- ・それぞれの学部の良さや、特徴を知ることができ、1年生の今から進みたい大学を考えていきたいと思った。
- ・前期生は「苦手を作らないこと」、後期生では「得意を伸ばすこと」が大切だと知り、自分の得意分野から大学、就職を決めていきたい。
- ・大学は勉強するところと思っていたが研究するところだということが分かった。
- ・各学部についての話はあまり聞いたことがなかったので、今回聞けて良かった。
- ・大学を選ぶときは、自分の就きたい職業を考え、その学部や学科がある大学にすればいいことが分かった。